



鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第86号

2017年3月3日

平成29年度年次総会概要決まる

国のまほろばで祈り・祀りの原型を多角的に議論

6/17・18に大神神社(奈良県桜井市)で

今年の年次総会・研究発表会・シンポジウムを6月18日(日)に大神神社で開催する。大神神社は、わが国最古の一つと言われる古社で、奈良盆地の東に位置する神体山・三輪山の西麓に鎮座する。本殿がなく、拝殿から神体山を拝むという古代信仰の形を今に伝えている。

シンポジウムでは三輪山のふもとで捧げられた原初の祈りと祀り、また政事に社叢が果たした役割などについて論議を深める予定。

大きな台風被害から立ち直りつつある三輪山も新緑に包まれ、境内では笹百合がそここに可憐

な花を咲かせる。古代人が愛でた風景に抱かれ、国の原点に思いを馳せる2日間となろう。

6月18日(日)：大神神社大禮記念館

9:30～10:15	年次総会
10:20～12:00	研究発表
13:00～17:00	シンポジウム
13:00～14:00	基調講演
14:15～17:00	パネルディスカッション
17:00～18:00	懇親会

見学会では希望者に三輪山登拝も

総会に先立つ17日(土)の見学会では、大和盆地に点在する古墳群を訪れる。大神神社での正式参拝の後、まずは三輪山麓に古代王朝を樹立した天皇ではないかといわれる崇神天皇の陵へ。そこからは南下しながら神話の謎を秘めた箸墓古墳、邪馬台国の中心とも比定される纏向遺跡などを訪れた後、最古の市が立ったという海石榴市跡へ。最後に橿原考古学研究所附属博物館で出土品などを見学する。

三輪山登拝は大神神社北隣の狭井神社が入山口になる。ここでお祓いを受けた後、「辺津磐座」「中津磐座」を経て、頂上の「高宮神社」、更に進んで「奥津磐座」に至る往復約2～3時間の行程。写真撮影や飲食は禁止されている。1998(平成10)年9月の台風7号により甚大な被害を受け、中腹から山頂に至る樹齢50～500年のスギ、マツ、ヒノキをはじめ、カシ、クス、サクラなど多数が倒れ、高宮神社付近に至っては、全滅に近い被害を受けた。被害面積は46.38ha、概算被害本数は1万本を超えた。現在、氏子を中心とした三輪山の緑を守る運動が、熱心に繰り広げられている。

6月17日(土) 見学会：三輪山登拝と周辺古墳群見学

9:00～	大神神社正式参拝と三輪山登拝(希望者のみ) 解説：渡辺弘之副理事長
11:00～	大神神社正式参拝と大神神社境内拝観
13:00～16:00	専用バスで崇神天皇陵、纏向遺跡、箸墓古墳、海石榴市など見学
16:00～17:00	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館(自由解散)



大岩神社の社叢管理を考える

案内・説明：渡辺 弘之(社叢学会副理事長・京都大学名誉教授)
糸谷 正俊(社叢学会副理事長・株式会社総合計画機構相談役)



上左：鬱蒼と茂ったタケ林 上中央：明智光秀の鎧が沈んでいるといわれる池 上右：宙に浮いたまま放置された伐採木 中左：堂本印象が寄進した石の鳥居 中右：タケが倒れこんだ拝所 下：大岩展望台から京都市街、愛宕山方向を望む

今回は、子どもの今と未来に取り組む父親たちが集う父活Projectから協力を求められていた大岩神社（京都市伏見区深草向ヶ原町）の社叢管理について、その可能性を探るために現地を見学した。大岩神社は、伏見桃山から比叡山、鞍馬を経て、高雄、嵐山に至る京都一周トレイルの、伏見桃山から伏見稻荷大社奥社

へ向かう約9.5^{km}のコースの終盤近くに位置し、近所には大岩山展望所がある。

この日は快晴に恵まれ、京阪藤森駅から深草少将が小野小町のもとに通い続けた百夜通いの道筋と伝えられる大岩街道を東にたどる。今ではその面影もなく、交通量の多い府道となっているが、20分ほど歩くと大岩神社参道口に到着し、ここからは車両通行禁止の地道が続く。まず目につくのは鬱蒼と茂るタケ林で、絡みつくように、また覆いかぶさるように参道の日照を遮っている。しばらく歩くと「大岩神社」という石碑と鳥居が見えてくるが、このあたりでようやく雑木林に入っていく。

参道わきの池には倒木が倒れこみ、こちらも荒れた雰囲気だが、明智光秀の鎧が沈んでいるという伝説がある。拝所は、竹が倒伏したせいか柱が歪み、今にも倒れそうで立ち入り禁止の表示がある。ここには世界的に活躍した日本画家である堂本印象が寄進した石の鳥居が立っている。鳥居全体に装飾がほどこされた斬新なデザインで、独特の存在感を放っている。

参道の左右の社叢はとところどころ手が入ってるようだが、倒木や、伐採したまま宙に浮いた樹木が放置されており、適正な管理の必要性が見て取れる。本殿には、この神社の名のもととなったであろう大きな岩が祀られている。結核治癒の効験があるとして信仰を集め、参拝客で賑わったということだが、今ではすっかり物寂びた雰囲気に包まれている。

大岩山展望所からは、折からの晴天で京都市内はもとより、大阪の高層ビル群が小さく見渡せる。ここで一休みしながら感想などを述べ合ったが、やはりタケの間引きや、ある程度の間伐の必要性が指摘された。さらには樹木に名板をつけたり、参道の落葉の掃除だけでも随分印象が変わるという指摘もあった。深草少将の百夜通いや明智光秀の鎧伝説、京都らしい竹林など、魅力的な素材は多々あるので、もう少し歩きやすい道にすれば、子供が父親と野外活動をする格好の場所になり得ると実感した見学会だった。





諏訪信仰と小宮の御柱祭

講師：藺田 稔(社叢学会理事長・京都大学名誉教授)
茂木 栄(社叢学会理事・國學院大學教授)

1. 諏訪大社（旧官幣大社、信濃国一之宮）

諏訪大社は、全国各地の諏訪神社の総本社であり、国内にある最も古い神社の一つで、諏訪湖の周辺に4箇所境内地を持っている。まず上社と下社に分かれ、諏訪市に上社本宮、茅野市に上社前宮があり、下諏訪町に下社春宮と下社秋宮がある。ご祭神である諏訪明神は古くは風・水の守護神で五穀豊穡を祈る神。また武勇の神として広く信仰され、東国第一の軍神として坂上田村麻呂や源頼朝、武田信玄、徳川家康らの崇敬を集めた。

上社、下社ともに御祭神は建御名方神、八坂刀女神であるが、上社は男神、下社は女神とする観念が根強い。冬季に全面氷結した諏訪湖に現れる亀裂は、「御神渡り」と呼ばれ、男神が女神に会いに行った跡とされる。建御名方神は『古事記』にも登場し、出雲から建御雷神に追われ、諏訪湖で服従を誓った。

2. 御柱祭り

御柱祭りは7年に一度、寅と申の年に行われる天下の大祭で、昨年も盛大に行われた。樹齢150年を優に超える大木の、16本の選ばれたモミの木だけが御柱となり、里に曳き出され、諏訪大社の社殿の四隅に建てられる。宝殿の造り替え、そして御柱を選び、山から曳き、境内に建てる一連の行事を「御柱祭」と呼び、諏訪地方の6市町村の氏子たちがこぞって参加して行われる。正式名称は「式年造営御柱大祭」である。春の諏訪大社の御柱が終わったあと、諏訪地方、天龍川支流中流域まで、約300社の関連の大小の

お宮で、御柱祭が一年の間に行われた。今年は諏訪大社の御柱祭と小宮の御柱祭の年であった。

室町時代の『諏訪大明神画詞』（すわだいみょうじんえことば）によれば、平安初期、桓武天皇の時代（781～806）に「寅・申の干支に当社造営あり」と御柱祭についての記録が残されている。起源については諸説様々あるが、縄文時代の巨木信仰という説もある。御柱そのものは、長さ約17m、直径1m余り、重さ約10トンの巨木。柱を山から里へ曳き出す「山出し」が4月に、神社までの道中を曳き、御柱を各社殿四隅に建てる「里曳き」が5月に、上社・下社それぞれで行われる。諏訪の人々は氏子として全精力を注いで16本（4社×4本）の柱を地区ごとに担当する。

御柱祭にかける氏子の情熱は、昔も今も変わることなく、日本人の熱いエネルギーの高ぶり、神聖な熱狂にあふれた稀少な祭りといえるだろう。

平成4年に記録された御柱祭の映像は、大変荒々しく、活気に満ち、見ている方も思わず力が入る迫力であった。強烈な、命がけの祭りの野生が諏訪には残っている。地域の自然、風土、神話に基づいた祭りは自然の恵み、気候風土を再現し、繰り返して行われ、過去の大再現といえる。近代化以降も失われることのない個性、特性が受け継がれている。

※ 当初予定していた島田潔氏は一身上の都合により出講できなかったため、藺田、茂木両理事による講話となった。（文責・渡邊節子）

次回予告【第73回関東定例研究会】

- ◆日 時：4月22日(土) 14:00～16:30
- ◆場 所：國學院大學渋谷キャンパス120周年記念2号館1階 2104教室
(教室は変更の可能性あり)
- ◆テマ：「神宮外苑の過去・現在・未来」 オリンピック2020に向けて
一大地に根ざした「本物の杜」の実現のために
- ◆講 師：石川 幹子(ランドスケープ・アーキテクト・中央大学教授・
東京大学名誉教授)

※ 共催：國學院大學環境教育研究プロジェクト・ポーラ伝統文化振興財団

社叢見守り隊 関東で 関西で ぜひ、ご参加ください!

関西は4月12日(水)に長田神社へ

前号で実施要項を紹介した「社叢見守り隊」は、1年前に発足した武蔵国(東京・神奈川・埼玉)隊に加え、1月からは関西で、神戸市西部をフィールドにした活動が始まっている。

関東では原則として土曜日に開催。東京日本橋から始まった調査は埼玉県に足を延ばし、2月には越谷で10社を訪問。3月は再び東京に戻り、芝東照宮(港区)や赤坂氷川神社などを訪ねた。

一方、関西では1月から、水曜日に神戸市西部の市街地に点在する社叢を巡る活動が始まっている。今回は4月12日に長田神社などを訪れる。

蓄積されたデータは、近く当学会HPに掲載を予定している。参加希望、居住地域で新たに立ち上げたいとお考えの場合などについては、事務局に問い合わせられたい。

事務局から

- 年次総会は別記の通り、古代日本の謎を秘める三輪山を神体山とする大神神社での開催です。見学会では、ご希望の方には三輪山の登拝もしていただけます。ぜひ、ご参集ください。研究発表も募集中です。こちらも奮ってご応募ください。
- 国際花と緑の博覧会記念協会から、来年度も助成金が頂けることになりました。東日本大震災被災直後から続けてきました社叢調査から見え

てきた防災拠点としての役割などを、広く全国に情報発信し、「想定外」を少しでも減らしていきたいと考えています。再度、現地見学会をというご希望も伺っています。実現に向けて、可能性を探っていきたいと存じます。

- 社叢インストラクター養成セミナーを、昨年は福岡県で実施いたしました。来年度は、いよいよ関東で実施するべく準備を進めて参ります。社叢には里山や人工林管理とは少し違った視点が求められます。本紙、HPでご案内いたしますので、ぜひ、ご受講ください。
- 会誌『社叢学研究』第15号を同封いたしました。今号も力作ぞろいです。「活動報告」や「社叢訪問記」など、会員の皆さま方のページも充実してまいりました。ぜひ、ご投稿ください。

編集後記

プレミアムフライデーだとお！ タイドの悪いヤツは続出するし、投げ出し気味に泣きついてくる輩もいるし！ それどころの騒ぎかっ！！ ざけやがって！！ あらま、思わずお下品に。。。

閑話(じゃないけど!)休題、1月の始めのこと、京都は大雪に襲われました。市街地でも大雪だったから、鞍馬の山はさぞかしと思っていたらば！ 叡山電車の鞍馬駅前のかい天狗さんの鼻が折れた！ 偉そうに真っ赤な顔で乗降客を睨みつけてたけれど、発泡スチロールでできてたんだってさ。で、今ですよ、なんと！ 折れたところにてかい絆創膏がっ！ 情けないとゆーか、おちゃめとゆーか。笑える。。。(藤岡 郁)

研究発表者募集!

テーマ：社叢に関する理論的研究や社叢の保存・拡充に関する実践的調査研究
※ いずれも未発表のものに限る

発表時間：20分(報告15分+討議5分)

応募締切：2017年3月末日必着

応募要領：住所・氏名を明記の上、発表内容を300~400字にまとめ、E-Mail、FAX、郵便で本部事務局に送付

次回予告【第75回関西定例研究会】

- ◆日 時：2017年3月25日(土) 13:30~15:30
- ◆場 所：伏見稻荷大社儀式殿(伏見区藪ノ内町68)
- ◆テマ：鎮守の森とコミュニティづくり ー人口減少時代とこれからの日本社会
- ◆講 師：広井良典(社叢学会理事・京都大学教授)

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号
TEL075-212-2973 FAX075-212-2916
URL <http://www.shasou.org> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp
社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内
TEL080-1514-5032 E-Mail shasougakkai@hotmail.com